

長野県立こども病院 外来医師担当表

平成20年1月1日現在

長野県立こども病院だより第11号 発行日:2008年1月5日 発行者:宮坂 勝之
〒399-8288 長野県安曇野市豊科3100 TEL.0263-73-6700 FAX.0263-73-5432

外来名	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	
整形外科	藤岡文夫 (AM)	(手術日)	藤岡文夫 酒井典子 加藤博之※1(非)	藤岡文夫 (装具)	藤岡文夫 酒井典子	
小児外科	好沢 克 (AM)	町田水穂 (AM) 百瀬芳隆 (PM)		好沢 克 (AM) 百瀬芳隆 (PM)	町田水穂 (AM)	
眼科			非常勤		非常勤	
総合診療部	総合診療	石井栄三郎	伯耆原 石井QOL (PM)	川合 (AM) 吉川 (PM)	西村貴文 (AM) 小林法元	
	内分泌		非常勤 (AM)※2			
	血液・腫瘍		小林法元	石井栄三郎	吉川 (AM) 西村 (PM)	
	免疫・アレルギー	川合 博 (AM)			伯耆原 祥 山崎和子 (PM) (非)	
循環器科	原田順和 打田俊司 (AM)	里見元義 安河内 聡	打田俊司 (AM)	里見元義 (AM) 瀧間浄宏	安河内 聡 (AM) 瀧間浄宏	
北棟 外来	脳神経外科	重田裕明 (AM)	重田裕明 (AM)		重田裕明 (AM) 宮入洋祐 (PM)	宮入洋祐 (AM)
	泌尿器科	西澤秀治 (AM)		西澤秀治 (AM)		西澤秀治 (AM)
	総合診療部 新生児フォローアップ	佐野葉子	依田達也	中村友彦	中村友彦 (AM) 佐野葉子 (PM)	依田達也
	形成外科	野口昌彦 近藤昭二	近藤昭二 (PM)	野口昌彦 近藤昭二 (レ-サ-)	野口昌彦 (レ-サ-) 近藤昭二 (PM)	野口昌彦 (PM) 近藤昭二 (PM)
	麻酔・集中治療科	大畑 淳 (AM)				井口まり (AM)
	皮膚科			太田由子 (非) AM		
	神経科	平林伸一	平林伸一 平野 悟	笛木 昇 平林伸一 (PM)	平野 悟 (PM)	平林伸一 平野 悟
	精神科 (こころの診療科)				原田 謙 (非) PM	
	遺伝科	川目 裕		川目 裕	川目 裕	川目 裕 (AM)
	耳鼻いんこう科		工 穰 (非) (PM2:00~5:00)			
	循環器科 (胎児心臓外来)		瀧間浄宏 (PM)		安河内 聡 (AM) 里見元義 (PM)	
	産科	菊池昭彦 (PM) 高木紀美代 (PM)	菊池昭彦 高木紀美代	菊池昭彦 高木紀美代	菊池昭彦 (PM) 高木紀美代 (PM)	菊池昭彦 高木紀美代
	リハビリ テーション科	笛木 昇 原田由紀子 (非)	笛木 昇 (PM) (摂食嚥下外来)	河野千夏 (非) 平林伸一 (AM)	笛木 昇 平野悟 (AM) 原田由紀子 (非) (AM)	三沢朋子 (非) (PM装具)

※1 整形外科の加藤医師は隔月第3水曜日のみです。
 ※2 内分泌外来は、毎週火曜日9時~12時となります。
 ※3 精神科(こころの診療科)外来の初診を受けるには、予め総合診療外来または神経科外来の受診が必要となります。
 ★診察時間:午前9時~午後4時 休診日:土・日曜日、祝祭日、年末年始
 ★受診には、原則として予約が必要です。また、初診時には保険医療機関からの紹介状が必要です。
 予約受付時間:8時30分~17時15分 月曜日~金曜日(土・日曜日、祝祭日、年末年始を除く)

予約専用電話0263-73-5300

詳しい受診案内はこども病院ホームページにも掲載しています。

<http://www.pref.nagano.jp/xeisei/kodomo/>

**長野県立
こども病院だより**

2008年1月5日発行 No.11

長野県立こども病院
長野県立こども病院理念

こどもは社会に潤いを、未来に希望を与える宝物です。長野県立こども病院は、周産期・小児の専門医療を、全人的な総合医療として提供し、未来あるこどもたちの健やかな育成を目指します。

Contents

- 新年のご挨拶..... 1
- ボランティアの窓から
私たちにできること 歯みがき隊... 2
- 赤ちゃんとくすり..... 2
- 院内とびつくす..... 3
- インフルエンザ..... 4
- 患者満足度調査結果報告..... 5
- 外来 医師担当表..... 6

Japan Council for Quality Health Care
日本医療機能評価機構
当院は日本医療評価機構の認定病院です。

新年のご挨拶

院長 宮坂勝之

新年明けましておめでとうございます。昨年塗り替えられた赤い屋根が、澄み切った青い冬空に映え、カリヨンが毎日心地よいメロディーを奏でて、皆を和ませています。

昨年は、「高度専門医療体制を横断的に結合し、種々の重症患者に対して早期対応が可能な総合診療体制を拡充整備する」との「あり方を考える会」の提言に対応し、診療科の枠を超えた総合診療外来・救急診療の実施を実施し、救急患者、重症患者の受け入れ件数の増加などで効果が見られはじめ、より開かれた病院に向けて前進ははじめました。

主な出来事では、6月に皇太子、皇太子妃両殿下のご視察、10月には第1回こども病院祭の開催、そして11月には長年の思いだった「カリヨン」の除幕式がありました。NPO 法人「いのちと平和の森」の関係者、近隣の行政関係者、そして入院中の子ども達が引いたテープが30メートルの時計台に吊り下げられたくす玉を割ると、美しい鐘の音が流れました。本物のカリヨンの音が持つ潤いが伝わりました。このカリヨンの鐘は、「いのちと平和の鐘」と名づけられ、大小16個の鐘が組み合わせられ一番大きな鐘で直径が約42cmあります。これから朝(8:30)、昼(12:00)、夕方(17:00)の3回やさしい音色を奏鳴させてくれます。病める子ども達に癒しを与え、いのちの尊さと平和を祈るところが皆に伝わることを切に願わずにいられません。

また今年は、いつにも増して沢山のボランティアの方々が訪れて、コンサートやイベントを子ども達のために開いて下さいました。念願の「サイトウキネンオーケストラ」も9月には来て下さいましたし、季節変わりの「いわさきちひろ」さんの絵もすっかり溶け込みました。

病院経営に関しては、依然厳しい状況が続いています。経費削減に関しては職員一同の努力で成果を上げていますが、昨今の原油高が直接影響しています。業務改善を各職場で進めており、更に進める余地はあるものの現在の体制の中での改善には限界があります。

最大の課題は外来や入院患者数の伸びが今一步であることです。こども病院をより広くご利用いただける提案をすべきだと考えています。よく用いられる「最後の砦」という表現が、知らずに敷居を高くしていたかもしれません。何時でも受け入れる前提の総合診療を中心とした体制を積極的に県民にアピールすることが、経営の健全化にもつながるとの意識を皆で共有し、一層の経営の健全化を目指したいと思います。今年もどうぞよろしくお願いたします。



(冷たいものといっしょに飲ませると、薬の苦みに鈍感になり飲ませ易いものです。)

★注意すること!

- 赤ちゃんの主食であるミルクにまぜたり、乳首の先につけたりして飲ませてはいけません。だんだんミルク自体が嫌いになってしまいます。(薬の中には混ぜていいものもあります)
- 内服薬を飲ませる場合、赤ちゃんの手足を毛布でくるみガッチリと抱きかかえ、ほっぺをおさえ口のなかに入れる

ようにするとわりあい楽に飲んでくれます。

(飲み始めてくれたら、ほっぺを押さえる必要はありません)

【外用薬】

(坐薬)

そのままで入りにくい場合、水で少し湿らすとすんなり挿入できます。

(ぬり薬)

少量を、うっすらと伸ばすように塗って下さい。



院内とぴっくす

第1回 病院祭を開催しました

秋晴れの10月5日、第1回目のこども病院祭が開催されました。「探検・発見!! こども病院」をテーマに、スタッフを含め1200人余りにも上る皆様に参加いただき、病院

内の各部署で様々なイベントが行われました。日常ではあまり知ることができない病院という施設を地域の皆様に知っていただくとともに、当日同時開催された長野県小児保健協会の「こどもの健康週間」などの講演会や実際に自分の血液細胞を見ていただくことで、ご自身の体について興味を深め、こども病院で病気と闘う子ども達に想いを寄せて頂けたのではないのでしょうか。



防災訓練・トリアージ訓練を実施しました

10月26日、北棟4階会議室からの出火を想定した防災訓練を実施しました。こども病院という特殊な環境の中では、避難方法も用意する物品もそれなりの工夫を必要とします。当日あいにくの雨により、院内での実施となりました。

たが、毎年の訓練の積み重ねにより、順調に訓練は行われました。また、その1時間後には、大規模災害により、10人の患者さんが当院で受診する想定で、それぞれの傷病度分けを行うトリアージ訓練を実施しました。



インフルエンザ

今年は流行ります！！ 過去 20 年で最も早い流行

感染制御室 笠井正志

【今年の流行】

昨年はインフルエンザが夏にも沖縄で流行し、11月に全国の定点医療機関から報告された患者数は、同時期としては過去20年で最多となっています。

長野県でも、11月に中野市の小学校がインフルエンザで学級閉鎖になり、県内でも流行が始まっています。

【予防のポイント】

<感染経路>

発症した人から出る分泌物（鼻汁や咳飛沫）を直接あびる（飛沫感染）と分泌物が付着した手、物品を触ることによる（接触感染）の2種類の感染経路があります。特に接触感染による経路を断ち切ることが重要です。



<接触から発症までの期間（潜伏期間）は？> 通常1日～3日です。

<予防接種>

インフルエンザワクチンは、「効くの?」とか、「打ったら腫れた。しかも罹った」とか非難されることが多いワクチンです。有効率は、65歳未満の健常者では70～90%、1歳以上の6歳未満の小児では20～30%と報告されています。数字だけみれば、麻疹ワクチンのように、打てば確実に効果が出るワクチンと比べると不利です。しかし、高齢者での入院や肺炎を防止する効果は50～60%、死亡の予防効果は80%みられたとも報告されています。「打っても罹るかもしれないが、重症化が予防できる」のがインフルエンザワクチンの特徴です。重症化しやすい高齢者や基礎疾患がある方だけが打つのではなく、小さなお子さん、妊娠さん、高齢者のご自宅や職場にいらっしゃるならば、「うつさないため」にも健康な若い方でもワクチン接種をお勧めします。

<ご家庭での予防法>

家庭内にインフルエンザウイルスが持ち込まれると、2次感染者の発生率は、市中での感染の2～3倍といわれています。家庭内への持ち込み、家庭内での感染対策が重要となります。できることとしては、家族全員がインフルエンザワクチンを受けること、外から帰ったら手洗いをしっかりすることで持ち込みをできるだけ防止し、万が一ご家庭内で発生したら、患者の使うタオルは別にする、特に看病に当たることの多い方（お母さんが多いでしょうか）は、マスクを着用する、看護を終えたら必ず手洗いをするなどの対応が必要でしょう。

<いつまで感染するの？>

通常発症して7日間程度はウイルスを排泄します。特に感染力の強いのは発症後24時間です。こどもはウイルスの排泄が長期化しやすいといわれています。

最後に。インフルエンザは普通の風邪ではない

「インフルエンザはかぜの一種でたいしたことはない」という認識が我が国では広まっていますが、決してそうではありません。インフルエンザシーズンに、インフルエンザ流行に関連する肺炎死亡数は人口10万人あたり10人を越え、また、インフルエンザに関連すると考えられる脳炎・脳症で死亡したこどもたちは、年間数百人に及びます。インフルエンザは、重症化する恐れのある感染症であることを肝に銘じ、予防接種

すること、日常から手洗いをする、咳をするときはマスクをすることなどに十分留意し、

この冬を健康にお過ごしください。